

佐賀市農業再生協議会（佐賀県佐賀市）

組織の概要

- 米の需給調整、水田における作物の生産振興、担い手の確保・育成など、地域農業に関する様々な取組を一体的に推進するため、平成23年に設立。
- 協議会（農家戸数1,571戸のうち麦類生産農家502戸）では、水田裏作に麦の作付を行い、表作の水稻・大豆との二毛作により、水田農業全体での収益性を高め所得の確保につなげている。
- 麦類や大豆においては、産地交付金を活用しながら、担い手への集約化や団地化への支援を行い、稲わらや麦わら焼却低減にも支援を実施。



生産概要

- 【作付面積】水稻：2,037ha、小麦：1,388ha、大麦：1,323ha、大豆：968ha（R6年）
- 麦類においては、生育期間中に麦踏ローラーによる麦踏やカルチによる土入れなどのきめ細かな栽培管理を行っている。

取組のポイント

<排水性の向上による大豆や麦の発芽苗立ちの安定化>

- 大豆や麦類においては、播種時や播種直後の土壌の過湿により出芽や苗立ちが不良となってしまうため、そのような状態を避けることを目的として、耕うん同時うね立て播種を自動操舵トラクターを用いて行うことにより高精度の播種作業を行っている。
- その結果、発芽苗立ちの安定化につなげている。



自動操舵トラクターを用いた高精度播種

<需要に応じた生産を徹底>

- 当地域では、小麦については、日本めん用の「シロガネコムギ」、「チクゴイズミ」、パン用の「はる風ふわり」、「さちかおり」を、大麦については大粒大麦の「はるか二条」を作付しており、実需者から求められる麦種と品種を生産している。
- 麦類における赤かび病は最重要な病害であるため、農薬散布用ドローンの導入により適期防除が可能となり、赤かび病の発生及びDON低減につなげている。



ドローンを用いた防除

取組成果

<麦類・大豆の生産規模を拡大、麦類の赤かび病適期防除>

- 当協議会のうち2名が耕うん同時うね立てと自動操舵による高精度な播種作業に取り組んだ結果、効率的な作業が可能となり播種作業時間が短縮し、R5年度と比較してR6年度は小麦の作付面積が115.7%、大麦の作付が115.3%、大豆の作付が121.6%にそれぞれ増加した。



- 当協議会のうち1名が農薬散布用ドローンによる適期防除に取り組んだ結果、赤かび病の発生を抑えることができた。